

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371100530		
法人名	株式会社 サンコーライフサポート		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム うきうき		
所在地	熊本県宇土市松原町120-2		
自己評価作成日	平成25年3月1日	評価結果市町村受理日	平成25年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成25年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・うきうき農園で季節ごとに野菜の植え付けと収穫をおこない、家庭菜園を楽しんでいただいている。 ・毎週日曜日、ドライブにお連れしたり、近くのショッピングモールで外食を楽しんでいただいたり、地域の方々とのふれあいの場をもっている。 ・うきうき2大行事として「地域交流バザー」とオペラ歌手福嶋由記様を招き、地域、ご家族、利用者様他事業所を無料招待市「クリスマスコンサート」を開催している(来場者100名) ・地域との交流を図る為に、地域のクリーン作戦に毎回参加している。地域の方からは毎年夏祭りやどんどやの声をかけていただいている。 ・若年期認知症の方の要望に沿ったケアで、毎日ウォーキングの時間を設けている。若年期のケアの仕方に工夫をしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設して経年、平均年齢90歳というユニットと若年期認知症ケアという両局面に、職員一人ひとりが今何をすべきか意識を高くケアにまい進するホームであり、高齢化に対し看取りに向かう取り組みの一環としての勉強会の充実と、若年期の方への支援という重点目標を掲げ、職員の「看取りをさせてください。最期まで一緒に過ごし一時でも楽しませたい」という思いは家族からの絶大な信頼感に繋げ、心をつなげたケアは穏やかな日常や表情となって表出している。既存の建物というハードの困難さを職員の持つケア力や特技を活かした環境等ソフトを最大限に活用した共有空間は家庭的な雰囲気を醸し出し、今年は職員の見学である心意気を見てもらいたいという見学会を開催し多くの住民が訪れている。地域に向けた行事も定着し、“心うきうき・身体うきうき・明るい笑顔”という理念の実践であることが十分に表れ、職員のモチベーションの高さや職員同士の意思疎通の良さは見事であり、入居者主体への努力に大いに評価した。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼で理念の唱和を行い、各フロアーにも掲示し、全員が意識を持ち実践し、9月経営計画発表会の場で、検証結果を発表している。	基本理念である“心うきうき・身体うきうき・明るい笑顔”のもと、「個人の尊重、安全・安楽、社会参加」をケア規範として朝礼での唱和や掲示による意識向上に努めている。今年度もホームの現状に注視し、高齢化に対し看取りに向かう取り組みの一環としての勉強会の充実と、若年期の方への支援という重点目標を掲げ、運営推進会議の中で経営ビジョンを啓発している。基本理念や重点目標がプランに反映していることは、個別散歩に対する時間的な増員体制や集団ケアとしての全員での外食等に表れており、全職員に基本理念等が浸透し、笑顔の有る温かいホームであることが確認された。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	うきうき2大行事の「地域交流バザー」や福嶋由記様の「クリスマスコンサート」に地域の方々に参加を呼び掛けたり市の文化祭や夏祭りに出かけ交流を図っている。地域クリーン作戦の参加も続けている。	自治会には加入していないが、クリーン作戦や観音堂の掃除に参加する等地域の一員として活動している。また、ハードのイメージを払拭し認知症ケアを発信したいとの職員の提案による見学会(地域住民向け)の開催や、地域に向けた地域交流バザーは7年目となり地域住民も心待ちにさせる等この地域の行事として定着し、クリスマスコンサートも地域住民との交流や中学の音楽の授業として活用されている。敬老会に地元の保育園児の慰問を受けたり、地区の行事参加等地域との相互交流は充実し、散歩時に声かけや支援を受ける等認知症ケア啓発の一環に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	スタッフは宇土市認知症サポーター養成講座を受講しているが、まだ活かせていない、今後の課題である。施設の見学会を行い地域の方へ認知症の理解を深めてもらった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行政・地域包括・民生委員・地域区長ご家族の参加を得、ホームの活動報告や事故報告、行政からの連絡、地域包括からの助言を取り入れり、ご家族からのお話を聞かせて頂いている。	定例化した運営推進会議は、事業や行事等の報告の他、経営計画の説明、事例検討等により双方向性ある活発な意見交換が行われており、委員からのアドバイスを全職員で検討しケア向上に反映させている。また、会議をクリスマスコンサートに組み込む等創意工夫した様子も垣間見え、家族の参加減少に伴い全家族に案内することに変更している。	参加委員の意見やアドバイスも多く、充実した会議であることは議事録により確認された。進捗状況を説明したり、家族への情報の共有化として議事録の送付等検討されることにより、家族の興味や参加意欲に繋がることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会で、行政より県指定リハビリ専門の先生を紹介いただき福祉用具の見直し・嚥下困難者への機能訓練の仕方を館内勉強会で活用する。	行政の開催する集団指導への参加や介護認定調査内容の指導等に随時連絡を取り合っている。また、運営推進会議を通じて、様々な情報やアドバイスをケアサービスに反映させており、強固な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故対策委員会を活用して身体拘束をしないケアを心がけている	身体拘束は生命及び身体を保護する為緊急やむを得ない場合を除き、拘束及び行動を制限する行為を行わないことを全員が理解し、事故対策委員会において検討している。離脱行為は散歩に出たいシグナルと捉え階上に散歩コースを拵え、防犯カメラの設置と所在確認を徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	お互いに気付いた所は申し送りを行い、スタッフ間で言い合える関係作りに努め虐待防止につなげている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	宇城ブロック会議で弁護士会から講師を招き、認知症の為の日常生活自立支援事業や成年後見制度を学んだ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護保険制度改正に伴い、ご家族全員の方へ説明を行いました。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族より、玄関前が滑るとの指摘があり、即滑り止めの対応をおこなった。玄関の段差を無くしスロープにした。	入居者には日々の関わりの中で要望等を引き出している。家族へは意見箱の他、請求書の中に意見や要望の記載欄を設ける等家族等の意見や要望を重視した運営体制である。運営推進会議や家族総会も問題提起の場として生かされており、ハード面での改善等具体的に取り入れ、家族への訪問時の現状報告や状態変化時の随時の電話連絡等により、家族との信頼関係が構築しており苦情の申し出は無い。	家族会の中で、収支や運営体制等報告されており、透明性のある運営であることが確認された。家族会の中に家族のみの話し合いの場を検討され、今後も忌憚の無い意見や要望をサービスに反映されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者様の散歩スペースが少ないとの職員の意見を取り入れ、屋上緑化の許可を取り入れた。	代表から一任された管理者は職員とのコミュニケーションを図り、職員同士の意思疎通も良く、日々申し送りノートを介して情報を共有し、毎月ミーティングを開催し意見や提案を聴集している。今年は中間層の意見による施設見学会や階上の散歩コース設置等サービス向上に具体的に反映させている。また、管理職と中間職員育成の勉強会をスタートさせる等スキルアップに取り組み、法人をあげて新年会を行う等職員の働がいのある環境を作り上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賃金体系等の人事制度の整備・公表・資格手当の見直しをおこなった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上の為、職員全員にホスピタリティ研修と、中堅社員に向けたスキルアップ研修を行なった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇城ブロックグループホーム連絡会に加入しネットワーク作りが出来ていて、2ヶ月に1回の会合と年3～4回合同勉強会を行なっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期導入時は、情報収集をし、全スタッフで共有 気付いた点の報告をし合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	守秘義務の説明を行い、キーパーソンや他のご家族からも、現在の不安な事を聞く時間をもうけている。 ホームからの情報の発信をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンスを行い、その方のニーズの順位を見出し、スタッフ間で共有する事に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりが出来る事の役割を持ち、喜怒哀楽を共に分かち合う事で家族や友人の関係になり、本人から学び支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・行政等で行なわれる、認知症フォーラム等の呼びかけをしている。 ・日常生活状況を定期的に報告、面会の呼びかけをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	2F 故郷訪問を行い、馴染みの場所や馴染みの人に会える機会を作っている 3F 自宅に帰る機会をご家族に相談し、増やしていただき自宅で料理・親しい方々との会話を楽しんでいただいている。	入居者が一番会いたい人にコンタクトを取り支援する等“今”に視点を置き、家族の協力を得ながらこれまでの関係性を継続させている。生まれ育った故郷訪問や家族の入院先に見舞いに出かけたり、親類の美容室利用、通いなれた商業施設での買い物、家族総出で訪問され米寿祝いをしたもらったり、着物の仕立てをされていた方の家族の和装での訪問がきっかけとなりお雛様に着物の着付けを行う等このホームならではの支援に取り組まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士声を掛け合ったり、食事のお世話をされたり、朝の挨拶で笑顔を交わしたり家族的な関係が出来ている。時々口論がある時はスタッフが仲にはいっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後転所先へ訪問したり、看取り後のご家族へお礼の葉書などで関係維持に努めていく退所後のご家族へは、毎年賀状をお出ししている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別の希望を知り、どのような人を好みどのような時間を過ごす事が居心地の良い状態かを把握する	職員はマンツーマンで関わる中で入居者の思いを引き出したり、声かけに対する反応(声のトーンや表情等)により推察しケアに繋げている。難聴の方には筆談やホワイトボード等非言語的コミュニケーションで意思表示を促し、「ウォーキングしていない」という思いにはウォーキングカレンダーを作成したり、「家に帰りたい」方には自宅へ帰る日を設ける等本人本位の生活を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様本人と会話の時間をもち、傾聴する事で、一人ひとりの生活歴や暮らし方を知り日常生活に役立てている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夜間の申し送りや生活チェック表などで、気付きを大切にし、看護師との申し送りを徹底し早期発見に繋げている。個人に合ったレク体操や嚙下体操傾聴等で体力維持に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題点が出た時点で話しあいを行い、課題の分析検討を行いケアプランに繋げている。ご家族の意向は面会時や必要時電話連絡を行なっている。毎月の勉強会でケアの仕方を話し合っている。	本人・家族の意向をもとに、日々の申し送りノートを活用した随時の問題点の話し合いや、毎月の話し合い及び心身の変化に応じモニタリングを行っている。介護計画担当者としても3ヵ月毎に見直し、変化があれば追記し、介護認定更新時には家族と話し合いを持ち、プランを再作成している。理念が反映した“楽しく、生きがいある生活”に向けたプランや担当職員による行動評価表にもとづいた評価等職員の気づきや観察力が活かされたプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は毎日行い申し送りノートを活用し、その時に合わせて早めの検討を行なっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅願望の強い方へ、地元へ故郷を行ったり、喫茶を楽しみにお連れしている。入居者様の希望に合わせ時間外勤務を行い散歩の時間の時間(1時間余り)を毎日行なっている。(今年度屋上緑化し散歩コース完成の予定)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の夏祭りにご招待いただいたり、宇土市の文化祭見学や地元のショッピングモールでの外食で地域の方との交流を支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師と介護職の連携のもと早期発見に努め看護師同行により、かかりつけ医の受診支援を行なっている。必要時は看護師の判断により、往診をお願いしている	入居前からのかかりつけ医を継続しており、受診には家族やホーム看護師が同行する等状況や状態に応じている。又、専門医(心療内科)受診時はホームからの状況報告を家族に託したり、職員が同行し報告・相談している。協力医とは訪問診療や24時間の連携を図り、緊急時を含めた協力関係を図っており、訪問歯科の受診体制も取られ適切な医療受診に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は看護師との密な連携を行い、24時間適切な指示のもと安心して緊急時の対応が出来る		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族からの相談に応じ、主治医・担当看護師との情報交換スムーズに出来る様に日頃より親交できる関係を作るよう努力し、早期退院に繋げている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関してのマニュアルが出来ており、定期的にご家族へ説明し同意を得ている。ご家族へ主治医より今後の説明をして頂き、看護師と介護職を交え今後の方針を話し合う時間を設けている	医療連携体制の説明と共に、重度化時の体制や看取りの条件を書面により説明し同意書を交わしている。状態変化時には主治医を交え随時話し合い家族の意思を再確認しており、今年度協力医や訪問看護と連携を取り看取り支援が行われている。職員は研修を重ね共通認識のもと、看護・介護協働の支援は貴重な経験となり、入居者への思いも深くなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	特に夜間は、救急マニュアルを手元に置き、夜間救急体制を整え各階の連絡網を徹底している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防火訓練を実施して防災マニュアルを作成している近隣に住宅が少なく高齢者が多いため協力が得られない課題だが消防署が近い為避難場所1ヶ所に集まっているように指示をうけている	年2回の火災避難訓練を実施し、消防署との連携でホーム内の避難場所までの避難や通報の訓練を行っている。警備会社と契約し、日常はチェックポイントを作成し火元や電気機器の点検を実施している。又、今年度は備蓄を準備し防災の日に入居者も一緒に非常食を食べる等有意義な取り組みがされ、非常時の持ち出し品も一ヶ所にまとめている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の生活歴・習慣に配慮を行いその人に合った声かけを工夫し、プライドを保ち安心して落ち着いた暮らしが出来る思いやりを持った言葉づかいを心がけている	あなたらしく生活できるようにと個人の尊重を理念に掲げ、一人ひとりに反応のある呼称や親しみを込めた方言での話しかけが馴れ合いとならないように努めている。個人情報保護については写真使用について別途同意書を交わし、職員に守秘義務の十分な理解を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において本人の思いや意見を尊重し、その方のペースに合わせ間いかけを行いながら自己決定できる様な働きかけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に見守りをし、ありのままに観察し把握することで、その方の希望に添った支援が出来る様に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活歴情報を元に、ご本人のこだわりを尊重し自己選択してもらっている食べこぼしや衣類破損のある方にはスタッフが気付き支援している。衣類の少ない方には、バザー等の支援で頂いた衣類を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	座席を考慮し気の合う方同士で食事を楽しんでいただき、介助の必要な方はスタッフが声かけし楽しく食事が出来る様にした。個別に食事がしやすいように食器類を軽くしたり、形やトレーの色を変えている	給食委員会で入居者の好みを取り入れた献立を作成し、併設有料ホームと合同の厨房で昼・夕の副菜が調理されている。ホームではご飯を炊いたり、行事食やおやつを作っており入居者も出来る事を一緒に行っている。検査者を設け、持参した弁当等で職員も介助や声かけをしながら一緒に食事を摂り、時には個別の外食支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給では、声かけし時間をかけこまめに飲んでいただきたき、一日の必要な水分の摂取をしている。食事量に関しては日々の観察と1ヶ月毎の体重測定で把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの残存機能を活かしながら口腔ケアを行い、口腔内の状況を把握し、異常時は訪問歯科の指示を受けている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせたトイレ誘導を行なっている。	一人ひとりの排泄状況やパターンを把握し、間隔やサインを察しプライバシーにも配慮しトイレ誘導を行っている。生活リハビリで下肢筋力の強化に努め、トイレに座る事で排泄用品の減少や気持ちの良い排泄に繋げ、夜間使用されるポータブルは昼間は手作りのカバーを掛け、居室の雰囲気にも配慮している	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれの排便パターンを知りゆっくり排泄が出来る様に急がせないようにしている、緩下剤の種類や服用時間を考えたり、繊維の多い食品・乳製品、その方に合った便秘体操をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事前にバイタルチェックを行い、個人の希望に合わせて入浴介助をおこなっている1日3名ほどを入浴とし、ゆったりとした時間を設けフットケアにも力をいれている。	毎日入浴できるように準備をし、希望や体調に合わせて個々の介助方法を共有しながら支援している。プライバシーにも配慮し浴室の外からの声かけやリフト浴で対応したり、拒否が多い方には誘い方を工夫しており、ゆず湯やしょうぶ湯等を取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、お昼寝をしていただいたり、ソファで休んでいただいたり、好きな音楽を流し、入眠を促している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と連携をとり、服薬変更時申し送りを徹底している。誤薬を防ぐために3回の確認を行なっている。薬の目的や副作用をスタッフが知る為に1冊のファイルに個別にまとめている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の体調に合わせて出きる事をして頂き自信を付ける調理作業・お盆拭き・洗濯物たたみ・うきうき農園の収穫などで協力者には感謝の言葉を徹底している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎週日曜日天候や体調に合わせてドライブに出かけている。個別に一日1回ウォーキングや買い物に出かけたり、喫茶を楽しんでもらっている。	天候に合わせて玄関前での外気浴や菜園(うきうき農園)の手入れや収穫を楽しんでいる。又、日曜日をドライブの日とし季節毎の花見に出かけたり、地域行事や近くのショッピングモールへの買い物や食事等外出の機会を持っている。個別に毎日散歩される方には職員体制を増員して支援し、今年度、屋上スペースに芝を植え庭園が造られており、散歩や憩いの場としての利用が広がっていくと思われる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理のできる方はご家族と相談し、本人の希望額を所持できる様にしていて、いつでも買い物ができるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の許可を得、携帯電話をもっていたが、充電やかけ方等解からない部分は支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を重視した環境作りを心がけている、明るい空間を作り共有空間にはいつでも誰でも集まれるよう食堂や廊下に椅子やソファを設置している	既存の建物を改装されたホームは、無機質にならないように職員の工夫で季節の花を飾ったり手造りの品物が家庭的な温かさを醸し出している。入居者が集う食堂の他、広い廊下スペースにもソファや椅子・テーブルが置かれ、壁面には入居者の笑顔の写真等が飾られている。ホーム内は騒音もなく温度管理や清掃により居心地良く保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自が自分の場所作りをされている一人になりたい時は、居室や廊下のソファに座ったり、気の合った方同士思い思いに過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し、カーテン・馴染みの家具等その方の好みに合わせた居室作りを工夫している	馴染みの品物の持ち込みを入居時に説明し、本人が落ち着ける様にダンスやテレビ・机・椅子等が持ち込まれ、転倒予防にベッドを工夫したり、畳を置いたり、物が少ない部屋等個々に応じた居室づくりとなっている。家族写真が飾られた部屋には「おばあちゃん大好きだよ」と書かれたお孫さんの写真が置かれたり、自分でカレンダーに日記を書かれる入居者等、自分の部屋として使用されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を見やすくし、自立へ向けた配慮をし、環境整備に努めている転倒防止の為共有スペースの整理整頓を強化している。		